

縄文遺跡を英語でガイド



田小屋野貝塚で人骨の出土状況を説明する木造高生

8月22日、亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚周辺で英語ガイド付きモニターツアーが行われました。

県では、県内縄文遺跡を訪れる外国人観光客向けに、通訳案内士がガイドする現地発着ツアーを企画しています。モニターツアーは、その課題を探ろうと行ったもので、木造高校3年生6人と通訳案内士2人がガイド役、県内在住の外国語指導助手（ALT）3人が観光客役を務めました。

夏休み中に英語ガイドのスキルを磨いてきた高校生らは、縄文遺跡の成り立ちなどを全て英語で解説。同校の木村未結花さんは「わかりやすく伝えられた。市民全員で外国人観光客をおもてなしできるようにしたい」と話していました。

市北部の新たな防災拠点が完成

市内の消防署再編の一環である「北消防署」と「稲垣分遣所」の新築が完了し、9月1日から運用を開始しました。主に車力地区と稲垣地区、木造地区の一部を管轄し、地域住民の安心・安全を守ります。

北消防署は、豊富町のむらおこし拠点館フラット向かいに建設されました。併せて、これまで旧車力村役場にあった車力出張所を署内に移転。災害時には、迅速な情報共有による重要な防災拠点としての役割が期待されます。

斉藤勝署長は「管内どこでも迅速に出動できる体制を整えている。署員一丸で市民の生命と財産を守っていきたい」と力を込めました。



車両を点検する消防署員

手話は言語 児童が体験



真剣な表情で「こんにちは」の手話を学ぶ児童

9月4日、柏小学校（神彰彦校長）で手話教室が開催され、4年生32人が手話に関する理解を深めました。

この日は、西北五ろうあ協会の大村とみ会長と成田明子事務局長が講師として登壇。はじめに、聴覚障害を持った人が日常生活を送る上でどんなことに困っているのかを考えた後、「こんにちは」や「ありがとう」といった手話を使った会話の仕方を真剣に学んでいました。柏小4年の中村陽遥君は「伝わるのが楽しかった。手話を覚えて、困っている人がいたら自分から話しかけてみたい」と目を輝かせていました。教室は、今年4月に制定した手話言語条例の施策の一環。市は今後、3年かけて市内の全小中学校で実施する予定です。

いつまでも安全運転で生き生きと

9月5日、市内の高齢者を対象に「運転を続けるための教室」が開催され、約30人のドライバーが安全運転に必要な知識や体の状態を再確認しました。教室は、高齢の方が安全運転を続けて社会とのつながりを維持できるようにと市地域包括支援センターが主催。参加者は、理学療法士とつがる警察署員の指導のもと、自分の身体能力や危険察知能力などをチェックし、その結果をもとに運転の適性を確認。最後は、必要な筋力を維持する体操を学び、安全運転への意識を高めていました。

参加した傅法谷幸一さんは「運転シミュレーションでは、事故が起こりそうな場面を再確認できた。今後も安全を意識して運転を続けます」と話していました。



理学療法士の指導で運動機能のテストをする参加者

目指せ全国！ バド東北大会へ抱負



(左から) 野呂さん、片山さん、太田さん。後列左は同クラブの野呂監督

8月2日に行われた県小学生バドミントン選手権大会（弘前市）で、五所川原ゴールデン・クラブ（野呂尚司監督）に所属する野呂悠衣さんと片山瑠海さん（どちらも瑞穂小6年）が6年生以下女子ダブルスの部で準優勝、太田愛琉さん（瑞穂小5年）が、5年生以下女子シングルの部で3位入賞を果たしました。3人は、10月10日、11日に花巻市で開催される東北大会へ挑みます。

大会を前に9月10日、選手らが福島市長を訪問。東北大会へ向け、野呂・片山ペアは「昨年に続き2度目の挑戦。課題のフットワークを良くしていい結果に繋がりたい」、太田さんは「全力で戦いベスト8を目指します」と抱負を語りました。

住民、警察、行政が一丸「秋の全国交通安全運動」

9月18日、秋の全国交通安全運動（期間9月21日～30日）に先駆け、つがる警察署（菊池智和署長）でパトロール出動式が行われ、つがる地区交通指導隊員とつがる警察署員ら20人が、交通安全の啓発などに向け気を引き締めました。

はじめに福島市長が「全ての年代が交通安全に興味を持つよう働きかけ、交通事故の無い地域社会を作り上げていきましょう」と隊員らを激励。続いて菊池署長が「交通ルールを守らない、体調管理が不十分というのが管内の事故の特徴。これを念頭に置いて運動に取り組んでください」と述べました。出席者は、向谷地交通課長の出動申告を合図に車両に乗り込み、パトカーなど11台で市内のパトロールに出発しました。



市内の巡回に出発する交通指導車